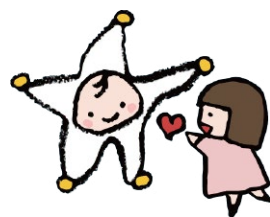




令和5年度

# 健やか親子21



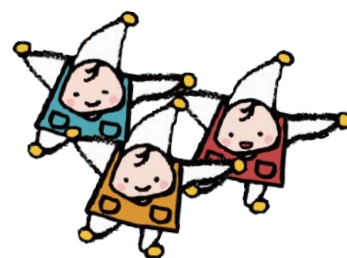
内閣府特命担当大臣表彰

[健やか親子表彰]

[功労者表彰]



受賞取組  
の紹介



こどもまんなか  
こども家庭庁

## 健やか親子表彰について

### 概要

- 国及び地方公共団体が講ずる成育医療等の提供に関する施策に協力し、先駆的な取組により、成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する自治体・団体・企業を表彰するもの。
- 表彰種類： **健やか親子表彰 最優秀賞 (1件)**  
**企業部門優秀賞 (1件)、団体部門優秀賞 (1件)、自治体部門優秀賞 (1件)**  
※詳細は、特設サイトをご覧ください：[https://sukoyaka21.cfa.go.jp/award\\_list/](https://sukoyaka21.cfa.go.jp/award_list/)

### 受賞者について

- 令和5年度は応募総数96件(自治体部門:10件、団体部門54件、企業部門32件)の中から以下3件が受賞となりました。

#### ■最優秀賞

[受賞者] 岡山県産婦人科医会

[取組名] 「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システム(岡山モデル)による虐待防止

#### ■自治体部門 優秀賞

[受賞者] 高知県立特別支援学校・高知県子育て支援課

[取組名] SVS(スポットビジョンスクリーナー)を用いた特別支援学校の眼科健診

#### ■団体部門 優秀賞

[受賞者] 一般社団法人シュフレ協会

[取組名] ママのがん検診応援プロジェクト

※今年度企業部門は該当なし

## 功労者表彰について

### 概要

- 成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する取組に長年携わり、地域社会全体でこどもの健やかな成長を見守り育む地域づくりに貢献している個人及び団体を表彰するもの。

### 受賞者について

- 受賞された取組を始めたきっかけや、受賞取組について健やか親子21公式サイトで公開しています。  
【受賞者の声特設ページ】 <https://sukoyaka21.cfa.go.jp/award-2023/>  
※受賞者取組の紹介につきまして、希望者のみ掲載しております。

## 表彰式

### 健やか親子21全国大会

- 日時：令和5年11月9日(木) 10時30分～
- 場所：栃木県総合文化センター(栃木県宇都宮市本町1-8)

令和5年度 健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰について ..... 1

### 健やか親子表彰

#### [最優秀賞]

▶岡山県産婦人科医会 ..... 4

#### [自治体部門 優秀賞]

▶高知県立特別支援学校・高知県子育て支援課 ..... 5

#### [団体部門 優秀賞]

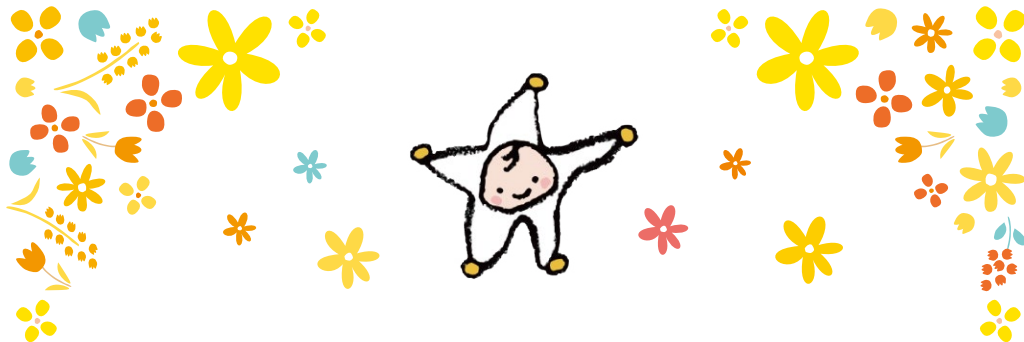
▶一般社団法人シュフレ協会 ..... 6

### 功労者表彰 [個人]

▶片桐 清一 氏 ..... 8  
 ▶上田 邦枝 氏 ..... 8  
 ▶永井 ひろみ 氏 ..... 9  
 ▶日吉 祐子 氏 ..... 9  
 ▶橋本 富子 氏 ..... 10  
 ▶岸本 喜代子 氏 ..... 10  
 ▶二位 ゆかり 氏 ..... 11  
 ▶岩崎 伊佐子 氏 ..... 11  
 ▶山口 清次 氏 ..... 12  
 ▶木村 幸子 氏 ..... 12  
 ▶永井 立平 氏 ..... 13  
 ▶古賀 龍夫 氏 ..... 13  
 ▶伊藤 雄二 氏 ..... 14  
 ▶荒田 尚子 氏 ..... 14

### 功労者表彰 [団体]

▶藤沢歯科衛生士の会・スマイル ..... 16  
 ▶南砺市母子保健推進員連絡協議会 ..... 16  
 ▶北茨城市愛育会 ..... 17



令和5年度

健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰

## 健やか親子表彰



こどもまんなか  
こども家庭庁

## 健やか親子21表彰 受賞者の声

## 最優秀賞

事業者名

岡山県産婦人科医会

取組名

「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システム  
(岡山モデル)による虐待防止

担当者

中塚幹也 氏

## 取組を始めた経緯は何ですか？

産婦人科医が産後1か月健診で母親を診察した時に、違和感を持ったが、診療に追われる中でそのままとなってしまった。その数日後に、その母親による新生児が重症となる虐待事例が発生。「気になっていたが確信がなく、保健師さんに伝えられなかった」との相談があった。このため、連絡のハードルを下げた「妊娠中からの気になる母子支援」連絡票の運用を開始した。



## 具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

関連のパンフレットを作成し配布、シンポジウムを開催し、「妊娠期から切れ目のない支援・虐待防止」の共通認識を持ってもらったうえで開始した。その後も定期的に研修会を開催している。

## 取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

従来の医学的リスクを見つけるのみではなく、社会的なリスク因子を見つけるための知識と意識を産科スタッフに持ってもらうこと。特に、疾患以外のことにあまり関心がないスタッフや最小限の仕事だけしたいと考えるスタッフに理解してもらうこと。

## 取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

実際に、連絡を頂いた社会的リスクを持った妊産婦が支援を受けてどうなったかをお知らせする機会や、岡山県では統計的に虐待相談・対応件数が抑制されてきていることを知ってもらう機会を作っている。

## 今後の展望・課題は？

メンタルヘルスの課題を持つ妊産婦への支援充実のために精神科医との連携、また、産後から子育て中への切れ目のない支援として小児科医・スタッフや子育て支援拠点スタッフとの連携。

## 健やか親子21表彰 受賞者の声

## 自治体部門 優秀賞

事業者名

高知県立特別支援学校・高知県子育て支援課

取組名

SVS (スポットビジョンスクリーナー) を用いた  
特別支援学校の眼科健診

担当者

安岡恵子 氏

## 取組を始めた経緯は何ですか？

20年以上にわたり、高知県の特別支援学校の眼科校医を担当しているが、知的精神障害を伴う生徒も多く、視力検査が不可能なため眼科健診の精度が極めて悪いことに苦慮していたため。

## 具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

既に、3歳児健診に導入されているフォトスクリーナー (スポットビジョンスクリーナー 以下、SVS) の有用性に着目した眼科校医が、高知県が所有するSVSを高知県子育て支援課から貸借して、肢体不自由児学校2校と聾学校にSVSを持ち込み屈折検査を試行した。



## 取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

- 1) SVSを所管する高知県子育て支援課と学校保健を担う特別支援教育課は、県庁内での管轄が違うため、既存の決まりでは直接の貸し出しが不可能であったこと。
- 2) 初年度、SVS導入時に養護教員へのSVS屈折検査値の解説および測定方法の指導が必要であった。

## 取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

- 1) SVSの有効利用の障壁となる既述の問題解決のため、両課が何度も前向きに協議を重ねて直接貸借が可能となった。
- 2) SVS検査の重要性を養護教員と保健室の看護師職員に啓発することによって、理解協力が得られた。

## 今後の展望・課題は？

高知県で達成した取り組み目標を、全国レベルに展開させて、1人でも多くの児の視覚向上に救いの手を差し伸べること。今回の受賞をきっかけにして特別支援学校の眼科健診にSVS導入の更なる周知、推進を加速させること。

## 健やか親子21表彰 受賞者の声

## 団体部門 優秀賞

事業者名

一般社団法人シュフレ協会

取組名

ママのがん検診応援プロジェクト

担当者

武次直美 氏

## 取組を始めた経緯は何ですか？

3人の子を残し亡くなった親友（享年36歳）の子どもと一緒にいられなくなった悲慘な状況を見て、若くても命に係わる病になる事、病のサインを見逃さない知識を持つ事、検診受診は子どものためと伝えてきましたが、コロナ禍で医療者からママ達が病院に寄り付かなくなったと聞いた事。



## 具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

健康意識の低いママが来なくなる要素を取り入れること。自分のためには重い腰のママ達も、子どもをお得に楽しませてあげられるイベントであれば足を運んでくれることからキッズパークと連携。メインは常に“子どもも楽しいから「おいで」”として、まずは足を運んでもらうことを重視しています。

## 取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

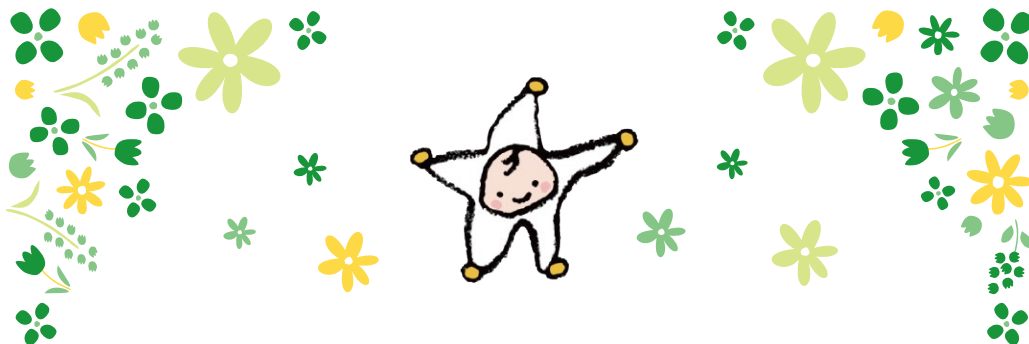
女性が対象なので女性の医療者に限定し、平日昼間にご協力いただける医療者を探すこと。医療機器（超音波検査機器）の手配にも苦労しました。

## 取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

ネットで探し、この人はと思った人にダイレクトメッセージを送り活動の説明に行き協力を仰ぐ。会う人会う人に「こんな人いないかな」と紹介依頼をするような、まさに草の根活動で乗り越えました。

## 今後の展望・課題は？

最低でも全国各区で当プロジェクトを当たり前で開催できるようにしていきたいです。地域のママ達が地元の企業の応援で健康を守れるように各地に支部、またはプロジェクト実行チームを構築。また、最初の一步はママのがん検診。その後はスムーズに地元のクリニックに検診に行けるような体制づくりも行っていきたいです。



令和5年度

健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰

## 功労者表彰 [個人]





## 功労者表彰

受賞者

片桐 清一

主要経歴

産婦人科医師

[主要経歴までの略歴]

昭和48年 医籍登録

平成8年 青森県教育委員会から産婦人科校医の委嘱を受け、高等学校の性教育を担当

平成14年 八戸市「いのちを育む教育アドバイザー」の委嘱を受け、同市内の中学校の性教育を担当



## 受賞者の声

## 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

産婦人科外来で、中学生、高校生の予定外の希望しない妊娠例、分娩例に遭遇し、何とかしなければならぬと考えました。

## 取組をどのように展開しましたか？

昭和52年から思春期問題に取り組んでおり、平成8年から青森県の産婦人科校医として、毎年10校程度の高等学校に出向いて性教育を担当しています。また、八戸市「いのちを育む教育アドバイザー事業」に参画し、同市内の中学校の性教育も担当させていただいております。

## 今後の展望

中学生、高校生の妊娠例、分娩例は増加しておりませんが、しかし、ゼロにはなっていません。今後も、中学校、高等学校での性教育を担当させていただく所存です。

## 功労者表彰

受賞者

上田 邦枝

主要経歴

生命と性の健康教育

[主要経歴までの略歴]

2000年：「生命と性の健康」開始

2016年：昭和大学助産学専攻科／昭和保健医療学部看護学科／昭和大学保健医療学研究科 教授

2018年：神奈川県助産師会 理事

2023年：教授を継続し、さまざまな年代の女性の健康をサポートする「うみかぜ助産院」開業



## 受賞者の声

## 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

産婦人科全領域の経験により、思春期の若者が、安易な性行動の発展により、性感染症や予期せぬ妊娠などを起こす現状を目の当たりにし、若者に性の健康を守るための医療者の支援の必要性を実感した。そこで、予防医学の視点で学校教育に医療人が介入することが重要であると考えた。

## 取組をどのように展開しましたか？

開始当時は激しい性教育のバッシングがあり、教育的な理解を得ることのできない状況があった。さらに、性教育のエビデンスも明らかになっていない部分があったため、大学院において性教育の研究を行い、発達段階別に継続的に行う体験型の「生命と性の健康教育」の効果を検証した。

## 今後の展望

年間約60講演、20年間で延べ1000講演以上行っている。今後も3000gの赤ちゃん人形の抱っこや妊婦体験等の生命教育をベースに、性の健康教育ではシミュレーションやグループディスカッション等、体験型教育を継続し、学校教育の中での包括的性教育のカリキュラム化に貢献していきたい。

## 功労者表彰

受賞者

永井ひろみ

主要経歴

ながい助産院母乳育児相談室  
産後ケア委託事業

[主要経歴までの略歴]

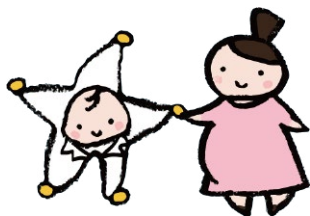
1995年助産院開設

2014年長野県助産師会保健指導部会長・理事 NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト理事

2017年長野県助産師会執行理事

2019年放送大学教養学部心理と教育専攻卒業認定心理士取得・千曲市産後ケア事業委託

2021年長野市産後ケア事業委託



## 受賞者の声

### 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

自らの妊娠、出産、育児を体験し、妊娠、出産早期から母乳育児を継続する為の支援、トラブルを解消する為のケアの必要性を感じた。また、それぞれの母子や家族へ心身のサポートと個々の生活に応じた継続的な育児支援の必要性を感じ、地域で助産院を開業し育児相談できる場所を提供したいと思った。

### 取組をどのように展開しましたか？

助産院を開業し、母乳育児相談、育児相談を開始。市の新生児訪問事業の委託、両親学級講師、育児サークルの立ち上げ、幼稚園、保育園の子育て講座講師を行う。産後うつや育児不安、家族間の調和の為、心理について学ぶ。産後ケアの委託を受け、多職種との連携を深めている。

### 今後の展望

市町村委託の産後ケア事業において、産後うつの早期発見や予防に努め、更なるケア内容の充実を図りながら切れ目な育児支援を行いたい。また、父親の育児休暇の取得の増加に伴い、父親に対する育児技術や心身へ支援の必要性を感じ、取り組んでいきたい。

## 功労者表彰

受賞者

日吉祐子

主要経歴

在宅歯科衛生士として、  
市の母子保健事業に長年従事

[主要経歴までの略歴]

1990年 歯科医院に勤務しながら、旧修善寺町の母子保健事業に従事。

2004年 合併して伊豆市となったが、継続して従事中。



## 受賞者の声

### 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

当時の町保健師から声をかけられ、むし歯のひどいお子さんを歯科医院で見ていたので、予防が大事であることを伝えたいと思い、引き受けた。

### 取組をどのように展開しましたか？

乳幼児からの生活習慣や口腔ケアが大切であること、生涯を通じてお口の健康を守っていくことを保護者に伝えながら歯科保健事業に従事している。

### 今後の展望

これからもお口の健康がからだの健康につながっていることを伝えていくとともに、食育事業も併せて展開していきたい。

## 功労者表彰

受賞者

**橋本富子**

主要経歴

**思春期健康教育(性教育)21年  
助産師44年**

[主要経歴までの略歴]

- 2002年～ (一社)大阪府助産師会  
思春期健康教育講師・事業担当
- 2003年～ はしもと助産院 開業
- 2005年 大学院修士課程 修了(臨床教育学修士)
- 2009年～ 2020年 大学教員
- 2018年～ 2022年 住吉区子どもの将来の  
ライフプラン支援事業



## 受賞者の声

### 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

1996年に楽しい子育てを目指し助産所を開業した。当時、地域で若年妊産褥婦に遭遇し、予期せぬ状態に翻弄される若者を目の当たりにした。そこで、小・中学から自身の将来の心身の健康を自ら築くための教育が重要と考え、2002年から思春期健康教育(性教育)に取り組んだ。

### 取組をどのように展開しましたか？

本会で性教育講師をしながら助産師が同じ目標をもち実践できるようガイドライン作成や学習会を行い整えた。また、実践には広い視野と見識が必要と考え大学院で学び調査・啓発を行った。2018年包括的性教育(Unesco)に出会い、現活動を確信しつつ、新たな取組を考えた。

### 今後の展望

2018年～5年間、若手助産師達と人権尊重・ジェンダー平等・論理的根拠を基盤に発達に応じた継続的な性教育をA区で実践した。実践中の生徒の様子やアンケートから生徒達が成長・理解している結果が推測された。今後も全生徒が継続して学び自身の将来に生かせるよう努めたい。

## 功労者表彰

受賞者

**岸本喜代子**(神戸市助産師会)

主要経歴

**1997年から助産師として  
性教育を実施**

[主要経歴までの略歴]

1997年から小・中・高校、養護施設で性教育を実施。その他男女共同参画センター、育児サークル、生涯学習グループにも実施し今年で27年目になる。2004年から「神戸市 専門職による思春期デリバリー授業」が実施されているが、始めた当初から講師をして19年目になる。



## 受賞者の声

### 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

1996年長男のエイズの授業参観で、正しい性の知識を伝える必要性を感じた。その頃に子育てサークルを通じてジェンダーの問題を知り、養護施設での子どもたちの思いを知った。性教育は誰にとっても大切なものとして、人との関係性と、助産師目線と子どもを中心に誕生の話をはじめた。

### 取組をどのように展開しましたか？

小学校で性教育をし、その子どもたちが中学生になると中学で実施。中学1年生から始めて3年間で4回実施等、継続教育に取り組む。また養護教諭と連携し妊婦に参加してもらい体験型の授業を16年間実施。2005年には家庭でも性教育がしやすいように 共著で「家族で語る性教育」を出版。

### 今後の展望

性教育は、人権教育であり、健康教育なので、幅広い年齢層に対し正しい知識を持ってもらい、健康でよりよい人生を送ってもらいたいと思っている。そのためには一人で性教育をするだけでなく、組織として活動できるような組織づくりのお手伝いをしたい。

## 功労者表彰

受賞者

**二位ゆかり**

主要経歴

**豊岡健康福祉事務所  
健康参事兼地域保健課長**

[主要経歴までの略歴]

1987年4月保健師として兵庫県に入庁。和田山（現朝来）、豊岡、丹波保健所、但馬長寿の郷、県庁母子保健担当部署で勤務し、通算約28年11ヶ月母子保健事業に従事した。



## 受賞者の声

### 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

少子化、核家族化、虐待など地域での母子保健の課題の変化に応じて、母子保健法、児童虐待防止法、発達障害者支援法など法律の施行や改正があり、保健所は身近な住民サービスを行う市町村を支援する役割があった。

### 取組をどのように展開しましたか？

県庁では「乳幼児集団健康診査マニュアル」（平成6年度）、健診マニュアルの別冊として「発達障害児を早期発見、支援するために」（平成17年度）の発行に事務局として携わった。また保健所では乳幼児健診のフォローの場として「遊びの教室」の実施や障害児の通園事業の立ち上げに関与した。

### 今後の展望

栄えある受賞を賜り、共に活動に取り組んだ皆様のおかげと深く感謝しております。今後さらに少子高齢化が進み、人口減少する時代背景の中で、次世代を担う子どもたちが健やかに育つためには、すべての世代の住民がお互いをサポートする仕組みづくりが大切だと感じています。

## 功労者表彰

受賞者

**岩崎伊佐子**

主要経歴

2021年7月～現在  
**和歌山県母と子の健康づくり  
運動協議会 会長**  
2022年7月～現在  
**全国母子保健推進員等連絡  
協議会 副会長**

[主要経歴までの略歴]

1993年4月～現在  
海南市母子保健推進員

2016年4月～現在  
海南市母子保健  
推進委員会 会長

2018年5月～現在  
和歌山県母と子の健康づくり運動協議会  
海南海草支部 支部長

2018年6月～2021年7月  
和歌山県母と子の健康づくり運動協議会 副会長



## 受賞者の声

### 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

自身の子育てが一段落した頃に、近所の先輩からお誘いを受けたこと、また市の保健師から子育てで支援をして下さる方を探していると言われたことがきっかけです。元々子どもが好きで、赤ちゃんと接することができる上、母子保健に係る研修会にも参加できると聞き、お引受けしました。

### 取組をどのように展開しましたか？

活動の中で生じた悩みは、母子保健推進員の間で相談するようにしました。また、常に市の保健師と密に連携をとるように心掛けました。親子に喜んでもらえたらという思いから、手作りおもちゃに関する講習を行って、仲間とおもちゃ作りをし、訪問時に持参したりしました。

### 今後の展望

研修会等を通して、正確で新しい情報を習得し、親子のニーズに合った情報をわかりやすく伝えていくことだと思います。また、今後も母子保健推進員活動が継続できるよう次世代の担い手を確保する観点から、活動の中で出会う保護者から、新たな人材を見つけたいです。

## 功労者表彰

受賞者

山口清次

主要経歴

わが国の新生児マス・スクリーニングの向上およびアジア諸国との国際協力の推進への貢献

[主要経歴までの略歴]

1982年 小児科学、および先天代謝異常の研究開始

1993年 島根医科大学(大学統合で島根大学)小児科教授(22年間)

2004年 厚生労働科学研究「新生児マススクリーニング研究班」班長(12年間)

2009年 日本マススクリーニング学会理事長(9年間)



## 受賞者の声

## 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

1982年から岐阜大学医学部小児科で先天性代謝異常症の病因、病態の研究を開始した。その後新生児マススクリーニング事業に参画した。

## 取組をどのように展開しましたか？

質量分析による代謝異常の自動診断プログラムの開発、有機酸・脂肪酸代謝異常の新規疾患の同定、新規治療法の開発、アジアとの国際協力、マススクリーニングの普及等の業績により、日本先天代謝異常学会、日本医用マススペクトル学会、アジア小児科学会より表彰を受けた。

## 今後の展望

小児科領域、小児保健領域で活躍する次世代の人たち、および患者会などの活動に対する助言等で支援したい。

## 功労者表彰

受賞者

木村幸子

主要経歴

山口県母子保健推進協議会会長表彰、山口県知事表彰

[主要経歴までの略歴]

2000年～現在

下関市健康推進委員

※2005年組織合併により下関市保健推進委員へ名称変更。

2001年4月～2019年3月

北部2地区保健推進委員会 監事、会長を歴任

2002年4月～2019年3月

下関市保健推進協議会 理事、監事、書記を歴任



## 受賞者の声

## 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

高齢者が多く乳幼児が比較的に少ないため、自身の子育て経験から地域で母親が孤立することがないようにしようと、平成12年度より市民センターや保健センターにおいて子育て交流会(七夕会、クリスマス会、ひなまつり会)を継続して企画・開催している。

## 取組をどのように展開しましたか？

母親が自身や子育てについて語るができるよう、きめ細やかな声かけを行い母親同士が負担感なく交流できる場づくりを行った。親子遊びの紹介、仕上げ磨きの必要性を参加した母親に説明して、親子のふれあい遊びやむし歯予防の推進を行って、人と人がつながる活動とした。

## 今後の展望

地域での声かけや子育て交流の場を開催を通じて、人と人がつながりを大切にして地域に根ざした活動を実施していきたい。併せて、引き続き子どもが地域で健やかに成長できるよう地区委員と協力しながら、地域のつながりづくりに尽力していきたい。

功労者表彰

受賞者

永井立平

経歴

高知大学卒業、  
高知医療センター勤務  
現在高知大学所属

[主要経歴までの略歴]

2001年産科婦人科医となり母子保健に関与開始。2009年高知医療センターで胎児診断及び治療体制の構築に着手。また、出生前診断提供体制の確立と結果報告後のサポート体制を構築。同時に胎児期に診断を受けた母と家族の支援について考える「高知周産期こころの研究会」を立ち上げる。



受賞者の声

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

医学的な手続きに従って出生前診断を行い正しく治療が行われたとしても、必ずしもすべての妊婦及び家族と児の健康が確保されるわけでは無いことを現場で知った。どのような情報に基づきどのような選択が行われるか、またどのような選択肢が提示され保証されるかが重要であると感じたこと。

取組をどのように展開しましたか？

同様の思いを持つ同業者を見つけ輪を拡げることから着手した。他地域での取り組みを参考に自施設でも同様の取り組みを試みた。関連学会と連携し、医療者のみならず一般を対象とした講演会を開催し、まずは存在を知ってもらうことを行っている。

今後の展望

一般を含めた多くの人に、周産期医療の実情と課題を知ってもらうように情報発信を続ける。今後は胎児期を乗り越え「出生前診断」を卒業した方々が、その人らしく過ごせる社会づくりを目標に活動を続ける。

功労者表彰

受賞者

古賀龍夫

経歴

1997年 医療法人  
こが小児科医院 設立

[主要経歴までの略歴]

- 1979年3月 久留米大学医学部卒業
- 1979年4月 久留米大学小児科科学教室入局、久留米大学病院、大牟田市立病院、聖マリア病院勤務
- 1982年 国立療養所南福岡病院小児呼吸器勤務
- 1987年 久留米大学病院、国立療養所東佐賀病院勤務
- 1990年1月 こが小児科医院開業



受賞者の声

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

平成になると、時間外に病院を受診する傾向が強くなり、大牟田市立病院でも時間外患者が急増しました。2次病院としての機能の低下や小児科医の疲弊を招くおそれがあるため時間外の患者対策として市内の小児科の開業医に協力依頼があり、小児科の当番医が始まりました。

取組をどのように展開しましたか？

平成14年より医師会による日祭日と平日時間外小児救急医療当番制が整備され、月、土曜は大牟田市立病院が担当、残りを小児科と内科の開業医が行いました。午後7～10時までを開業医が、10時以降は大牟田市立病院とし、日祭日は午前9時～翌日8時まで開業医が担当しました。

今後の展望

平日夜間は土曜日を市立病院、月～金曜日、開業医、10時以降は4件の救急病院が担当です。日祭日は開業医の負担を減らすため午前9時～午後6時となりました。制度開始から20年以上経過し、当初メンバーの高齢化が進み今後維持するためにはメンバーの若返りが緊急の課題です。

## 功労者表彰

受賞者

伊藤雄二

経歴

公益社団法人  
地域医療振興協会理事  
市立恵那病院副管理者

[主要経歴までの略歴]

- 2002年 社団法人地域医療振興協会西吾妻福祉病院  
副院長
- 2007年 自治医科大学附属さいたま医療センター  
総合医学第2講座准教授
- 2010年 公益社団法人地域医療振興協会  
西吾妻福祉病院院長
- 2015年 公益社団法人地域医療振興協会  
総合診療産婦人科養成センター長



## 受賞者の声

## 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

地域や離島での勤務経験において、地域周産期医療の継続のためには産婦人科医・助産師のみならず、総合診療医を中心とした他科医師など多職種および、地域の医療資源を活かした連携、さらには継続的な教育と人材育成の重要性を痛感したことがきっかけとなった。

## 取組をどのように展開しましたか？

日本に初めて導入された産科シミュレーション教育をいち早く取り入れ、群馬県山間へき地の病院で助産師を中心とした教育と周産期医療体制の確保を継続して行った。その後も活動を継続し岐阜県恵那地域における新たな周産期体制の確立や教育機会の提供に寄与している。

## 今後の展望

本活動の継続や地域の住民および若い世代への女性の健康に関する啓発教育を含めた活動の拡大は、分娩施設の集約化が進んだとしても、地域における女性診療やウィメンズヘルスケア・マタニティケアの継続を可能とし、地域の活性化に繋がるものと考えている。

## 功労者表彰

受賞者

荒田尚子

経歴

プレコンセプションケア概念の  
確立と全国への啓発活動

[主要経歴までの略歴]

1986年に広島で医師として歩み始め、翌年から東京にて糖尿病・内分泌・代謝を専門とする内科医としてキャリアを積み、2004年から現国立成育医療研究センターにて成育医療に貢献してきました。2015年に、日本発のプレコンセプションケアセンターを立ち上げ、本ケアの普及に努めています。



## 受賞者の声

## 取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

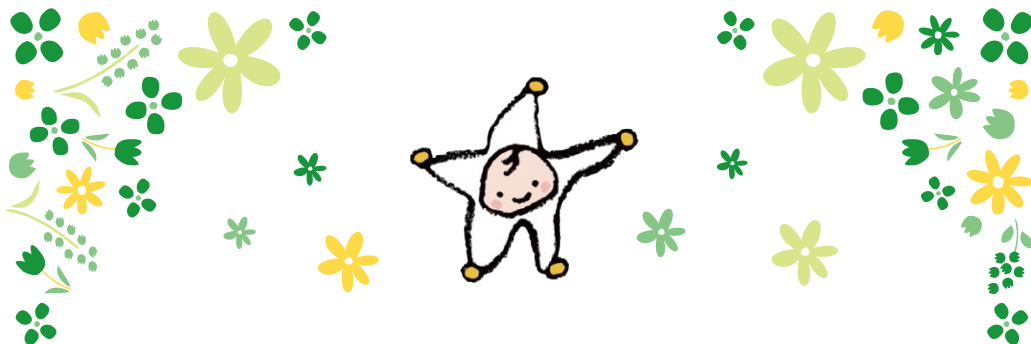
糖尿病を持たれた女性がおなかの赤ちゃんのために妊娠中に全力で血糖コントロールをされるお手伝いを医療者としてさせていただき、次世代を担うお子さんのより健康な出生と成長を考えた女性医療を内科の立場から提供することを志しました。

## 取組をどのように展開しましたか？

日本で必要なプレコンセプションケアを、「前思春期から生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的、心理的および社会的な健康の保持および増進」と定義し、同ケアを広めるための課題を明らかにしつつ、モデル事業を実施し、自治体や企業、教育現場での啓発活動を行ってきました。

## 今後の展望

教育・医療・地域保健・職域・企業・若い世代などが一体となって、前学童期から性成熟期の切れ目のない日本版プレコンセプションケアを実施することによって、世の中がより一層健康になることを望みます。



令和5年度

健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰

## 功労者表彰 [団体]





功労者表彰

受賞者

藤沢歯科衛生士の会・スマイル

[略歴]

当会は、日本歯科衛生士会に所属する歯科衛生士の会で、乳幼児から高齢者までを対象に歯・口の健康を守るための普及啓発活動を行っています。会長の若尾氏は平成26年、地域で活躍する歯科衛生士と意見交換や研修を通じ、互いに高めあうことを目指し入会。今年度、会長に任命されました。



受賞者の声

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

むし歯が増加する学童期に、教育現場では「歯の大切さ」を伝える機会が少ないことから、子どもたちが歯・口の健康に関して正しい知識を習得し、自分の健康を自分で守る力を身に付けられるよう、放課後児童クラブにおいて健康教育の実施ができないかと検討しました。

取組をどのように展開しましたか？

市と協働し企画・内容の検討を行い、夏休み等の長期休暇を利用し活動をしています。開始にあたり児童クラブ指導員への研修、打合せを重ね、依頼に応じ実施しています。毎年テーマを決め、歯・口の大切さを楽しみながら理解してもらえるよう、内容・媒体など工夫を凝らしています。

今後の展望

現在、市内児童クラブに通うお子さんには歯の大切さを伝える機会ができ、指導員や保護者の方にも大変喜ばれています。歯・口の重要性を少しでも早い年代で理解してもらい、一生自分の歯で食べられるよう、多くのお子さんに歯科保健教育が展開できるよう取り組んでいきたいです。

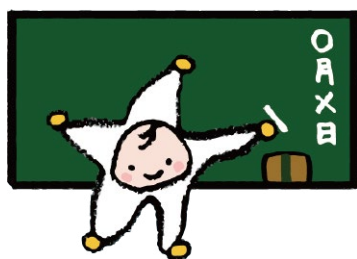
功労者表彰

受賞者

南砺市母子保健推進員連絡協議会

[略歴]

平成16年の町村合併を機に当協議会を設立し、「すくすく育て 南砺の子」をスローガンに、保護者が安心して子育てができるよう、住民にとって身近な相談者、支援者として積極的に活動を行っている。



受賞者の声

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

南砺市は、少子化や核家族化が進み、子育てを取り巻く環境は変化している。出生数が少なく、子育て家庭が点在することや、近隣住民間の交流が希薄になることで、子育て家庭が孤立しやすく、育児不安を抱える保護者が増えている背景がある。

取組をどのように展開しましたか？

乳幼児健診や育児教室などの保健事業への協力や、母乳育児の啓発普及のための訪問活動、市内子育て支援センターや育児サロンへの協力など地域の子育て支援に貢献し、家庭と行政の架け橋となっている。

今後の展望

小児期の肥満やむし歯罹患をテーマにし、乳幼児期からの規則正しい生活習慣づくり（早寝・早起き・朝ごはん）やむし歯予防（歯みがき・間食）のパペット劇を実施している。今後は市の課題である高血圧に着目した減塩について、健康づくりボランティアの一員として他の団体と協働し、幼児やその保護者に啓発活動を行う予定にしている。

功労者表彰

受賞者

北茨城市愛育会

主要経歴

健やか親子21 母子保健功労者表彰、愛育会会長表彰

[主要経歴までの略歴]

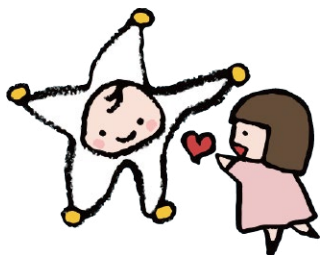
昭和55年5月 北茨城市愛育会設立

平成28年度健やか親子21 母子保健功労者表彰

第50回(平成30年度) 愛育会会長表彰(松井地区会長)

第53回(令和3年度) 愛育会会長表彰(下小津田地区会長)

第54回(令和4年度) 愛育会会長表彰(日棚地区会長)



受賞者の声

取組を始めようと思ったきっかけは何ですか？

昭和8年上皇陛下誕生を機に、昭和天皇から伝授された御沙汰書をもとに昭和9年3月13日に愛育会が創立されました(全国組織)。当市においては県からの要請により、北茨城市愛育会を創立し各時代の変化に応じた母子保健・福祉の課題に取り組み続けています。

取組をどのように展開しましたか？

取り組みを始めた当初は子育て支援を目的に活動していました。地域の子どもの見守りや、子育て世帯への訪問などです。しかし、地域の子どもが年々減ってきている現在では、子育て支援から地域全体の健康増進にシフトチェンジして活動しています。

今後の展望

北茨城市愛育会の会員も高齢になってきているため、活動に参加できる会員も年々減少しています。次の担い手育成のためにも新規会員の募集及び会員育成研修に力をいれ、会を継続し、地域の健康増進のために尽力していきたいと思っています。



お問い合わせ先

「健やか親子21」事務局

(株式会社 小学館集英社プロダクション)

E-mail:sukoyaka21@shopro.co.jp

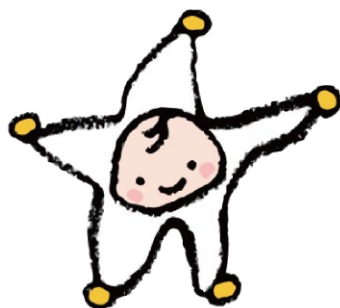
※「健やか親子21」事務局は、こども家庭庁成育局の委託事業の一部として、株式会社 小学館集英社プロダクションが運営しています。

令和5年度

# 健やか親子21

内閣府特命担当大臣表彰

〔受賞取組の紹介〕



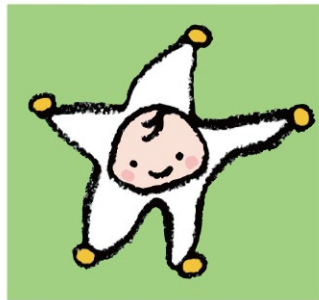
「健やか親子21」は、「すべてのこどもが健やかに育つ社会」の実現を目指し、関係するすべての人々、関連機関・団体が一体となって取り組む国民運動です。

詳しくは公式ホームページをご覧ください。

URL <https://sukoyaka21.cfa.go.jp/>



こどもまんなか  
こども家庭庁



## 健やか親子21

— 令和5年度 健やか親子21 —  
内閣府特命担当大臣表彰  
[受賞取組の紹介]